

## 感染症情報 2月5日～11日

府下小児科198療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	941例(堺市	44例)
②溶連菌感染症	372例(堺市	24例)
③RSウイルス感染症	99例(堺市	2例)
④突発性発疹	56例(堺市	3例)
⑤咽頭結膜熱	40例(堺市	2例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 11180例(堺市 994例)

が報告された。

感染症報告数は前週比0.5%減の1,611件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、突発性発疹、咽頭結膜熱の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より1%減、堺市では前週より47%増であった。溶連菌感染症は府下で前週より1%増、堺市で前週27例→今回24例であった。RSウイルス感染症は府下で前週比20%減、堺市で前週4例→今回2例であった。咽頭結膜熱は府下で前週比60%増、堺市では前週が4例→今回は2例であった。

インフルエンザは府下で前週13686例→今回11180例で18%減、堺市では前週1239例→今回994例で20%減となった。定点当たりでは前週が45.0で、今回は36.8であった。大阪府下では警報レベル開始基準値の30.0を下回るブロックも出てきている。今回報告分での1月の大阪府内のウイルス検出状況は、B型が53%、AH3(いわゆるA香港)が30%、AH1pdm09(いわゆる新型)が17%であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。